

こまつがわさかいがわ いちのえさかいがわ
小松川境川・一之江境川

小松川境川

げんろく まつおぼしょう
 元禄5年(1692)の松尾芭蕉の句に「秋に添うて 行かばや末は 小松川」というの
 があります。これはふかがわぼしょうあん おなぎがわ
 これは深川芭蕉庵から小名木川にそって秋景色をたずね、末は小松
 川まで行こうよ、と詠んだものです。

その後、利根川からの水が小松川に流れ、現在の江戸川の原型ができあがりまし
 た。そしてこの川が、江戸へつながる川として「江戸川」とよばれるようになりま
 した。

この小松川はかみこまつむら(現葛飾区新小岩付近)から流出し、西小松川村と西船堀村
 の境でしんかわ
 の境で新川に注いでいました。当時すでに東西に分かれていた小松川村の境を流れ
 ていたので、「小松川境川」とよばれるようになりました。

小松川はおうえい
 小松川は応永5年(1398)の『かさいみくりやちゅうもん ひがしこまつがわ にしこまつがわ
 葛西御厨注文』に東小松河および西小松河として登
 場します。また16世紀に編まれたおだわらしゅうしりょうやくちょう
 『小田原衆所領役帳』にも東小松川、西小松川
 の地名があります。またふねいりがわ
 船入川ともよばれていました。小松村(葛飾区)のあたりよ
 り流れる自然河川で、多くの小
 河川を集めて中川に合流してい
 ました。江戸時代にはその名の
 通り、舟が自由に行き来し、農
 業用水はもとよりこえぶね
 肥料(肥船)や
 農作物を運ぶ川として重要な役
 割も果たしていました。沿岸の
 住民の生業は農業が主体であ
 り、主には稲作と畑作、その双



小松川境川親水公園(松島一丁目四十番辺り)

方のバランスをとりながら生活していました。江戸に近接していたため、大都市への野菜供給地として特産品の小松菜などが大量に生産・出荷されました。

昭和30年代に入って、江戸川区も都市化が急速に進みました。小松川境川は農業用水としての役割を終えたこともあり、河川の親水公園化が新たに計画されました。昭和57年(1982)に「せせらぎのゾーン」が完成したのをはじめ、平成5年(1993)には全長3.9kmの親水公園となり、清流が蘇りました。

一之江境川

東一之江村と西一之江村との境を流れることから「一之江境川」の名があります。『葛西御厨注文』にも「東一江」「西一江」として村の名が見られます。

昭和38年(1963)に新中川が開削されるまでは、^{こあいためい}小合溜井を水源とした^{かみしものわり}上下之割用水から^{ようすい}分流した中井堀より現在の江戸川区一之江一丁目二番の地先で分水し、南に流れ、松江、船堀五丁目を経て、旧東船堀村と旧二之江村との境(現船堀六丁目と七丁目)で新川に合流していました。両流域の村々の用水または^{しゅううんろ}舟運路として大いに利用されていました。

昭和30年(1955)以降、「小松川境川」と同様、流域の都市化にともない、一之江境川にも家庭排水などが流れ込むようになり水質が悪化しました。以後、下水道の整備により排水路としての役割を終え、再び「一之江境川親水公園」として蘇りました(平成4年11月に着工し、同8年4月に全流域が完成)。

この親水公園の特徴は、新中川の自然水を流し、川岸や川底に工夫を加え、自然



一之江境川(船堀付近・昭和59年)

の川に近い造りになっており、魚・昆虫・水生植物が生息できる川を目指したことです。今では、四季折々の植物が生い茂り、水辺にふさわしい雰囲気をかもしだしています。また、釣りを楽しむこともできます。

江戸川区郷土資料室

〒132-0031 東京都江戸川区松島 1-38-1 グリーンパレス 3階
TEL : 03-5662-7176 (9:00~17:00)